

ZENBUTSU



# 全仏

No.  
530

仏暦2550年 7月  
[2007年]



(ルンビニーに昇る朝日 撮影 白川 淳敬氏)

目次

——— 論点・視点 ⑥ 田代 俊孝 「仏教と生命倫理」  
国連ヴェサックデー2007・第4回国際仏教徒会議報告  
加盟団体をゆく第6回 静岡県仏教会  
NEXT50 ② 齋藤 明聖 「全日本仏教会の記念事業と改革」  
理事会・評議員会開催報告  
財団創立50周年記念事業実行委員会各部会報告

## 論点・視点

⑥

## 仏教と生命倫理

同朋大学大学院教授・名古屋大学医学部倫理委員 田代俊孝

問われるのち

医療技術の進展とともにいのちがモノ化され、その「かけがえのなさ」との間で倫理が問われてきた。当然ながら宗教的価値観からもしのちは問われている。脳死・臓器移植問題に限っていえば、一九九〇年日本印度学仏教学会に脳死臓器移植の検討部会が作られ、その年の学術大会でもそのことが討議されたが、その後は仏教の立場から大きく取り上げられることはなくなった。各宗派においても、二、三の宗派で見解が示される程度で、そのことの研修や掘り下げた議論はあまり聞こえてこない。しかし、臓器移植法の改正にあたっては、本会の加盟する日本宗教連盟より衆議院厚生労働委員

会委員長と自民党の調査会会長宛に意見書が提出され、本会の立場も明確にされた。

しかし、脳死・臓器移植問題のみならず、代理母、死後受精等の生殖補助医療、安楽死・尊厳死等の末期医療、遺伝子治療、クローン、ES細胞の利用、キメラ等の問題もあり、医療や福祉の現場ではいのちが大きな課題になっている。生と死に深くかかわってきた仏教の立場からもっと積極的な発言やそのことに対する実践的な活動がなされてもいいのではないだろうか。生死に対する仏教の見方はアメリカでもヨーロッパでも関心と呼び始めているし、日本でも仏教に出遇った医療者たちは、少なからず仏教に期待している。ヒ

ューマニズムではなく、教理に照らしてその事にかかわっていくことが仏教復権の道でもある。

生命倫理とは

さて、生命倫理とは生命に対する倫理的、価値的問題であるが、近代物質文明によるいのちのモノ化と人間の尊厳、つまり「かけがえのなさ」とのせめぎあいであるといってもよい。象徴的な言い方をすれば、「生命」と「いのち」

の違いである。そのことは後に述べるとして、一般的に生命倫理の基準は、自己決定の原理、無危害の原理、公平・平等の原理、仁恵の原理、自然の原理、宗教的原理などである。しかし、どれも絶対的な基準ではない。実際には、社会的コンセンサスでその許容範囲が決められていく。

宗教的な立場から言えば、主に後者の二つである。つまり、生命に関するある行為が、自然の摂理を逸脱していないかどうか。人間が神の領域を侵していないかどうかといった点であろう。さらに加

えて、不殺生、平等の立場からいえば、相手に危害がないかどうか、つまり、自他のいのちの尊厳である。そして、自らの宗教的価値観に照らして、自己決定の立場から、その行為をするかしないかを決めなければならない。もちろん、そこでは当然のことながら自らの死生観、いのち観が問題となってくる。

仏教のいのち観

今日、いのちを呼ぶのに「生命」といったり、「いのち」といったりする。「生命」という言い方は科学的な意味あいがある。今日の社会は、近代物質文明の中で、科学が絶対である。科学はすべてを实在するモノとして見る。そして、客観的に対象化し、分析、数量化する。そのデータから仮説を立て、法則を導き、それを実験によって証明するという手法を用いる。その手法をとらないものは「非科学的」として問題にしない。数量は、右肩上がり引き伸ばしていくことが成長であり、その先に幸

福があると考える。

「いのち」は、違う。情緒的でもあるし、永遠性がある。あるいは絶対とのかかわりの中で主体的な立場で言えることばである。「涙の出るいのち」から自己を超えたものにかかわりを持っていく過程で、自らが気づいていく永遠のいのちである。

今日、「生命」は学校で理科や生物の時間に教えてくれる。しかし、科学を重視するあまり、かけがえのない「涙のでるいのち」を学校では教えてくれない。ここに現代社会の病巣もあるう。

### 生死するいのち

ところで、科学としての生命はモノであり、自身の所有物になる。現代人は異口同音に自分のいのちは自分のものという。では本当にそうであろうか。ならば、自分の力で生まれてきたのか。自分で思い通りに上手に死んでいけるのか。また、今日までも思い通りに生きてこられたのか。私は、思いがけず生まれ、三歳か、四歳に

なつて、訳（わけ）が着いてから自分のいのちと言っているに過ぎず、それよりも前にいのちを頂いていたのである。また、私はいくら上手に死のうと思つていても、思いもよらず、死んでいくのである。さらに、私は、私の拙い半生を振り返ると生まれてから今日までが毎日毎日思いがけないことの連続であつた。生死は不如意であり、不如意なるものを思い通りにしようとするから苦しまねばならないのである。

一切が縁起の法の中にあるのである。確固たる自我的なものはなく、ご縁の存在、つまり、関係存在である。その意味で、生も死もなく、無生無死である。あるのは、生死する「今」のいのちである。

さらに、言えば、生も死も思いを超えた大きな働き、つまり「不思議」の中にある。まさに、孫悟空のごとく気づいてみれば仏様の大きなみ手の中だったのである。本願他力の妙用によって生かされていたのである。その中で、我執によって、独り相撲をとつて

苦しんでいたのである。自然の法に乗托したとき最も安らげるのであり、事実を事実のままに受け止めていけるのである。こういった価値観に立ったとき、おのずと仏教徒としての生命に対する見方も定まってくるのである。

### いのちの教育

#### （デス・エデュケーション）

さて、このような価値観も社会では、個人の死生観として当然尊重されねばならない。苦を超える道としての仏教を、さらにこのような死生観をどう伝え、育てていくのか。まさに「いのちの教育」こそが、僧侶の役割であり、焦眉の課題である。代理母とは、他の女性を子供を生む道具にしてしまつていてではないか。臓器移植は他者を犠牲にし、誰かが脳死になるのを待っている医療ではないか。遺伝子操作は人間を欲望のままにデザインし、未来にそのつけを回すことにもなりかねない。安楽死もまた、賜つたいのちを自ら放棄し、弱者の泣き寝入りになり

かねない。足ることを忘れ、他者を犠牲にしてまでも自分の欲望を満たそうとする医療が、王道であるとは私には思えない。今、死なんとする命も、誕生した命も平等である。「我」を捨て、無生無死に目覚ることこそが仏教のめざす所である。仏教者の使命は大きい。

田代 俊孝（たしろ しゅんこう）氏  
一九五二年生まれ。大谷大学大学院博士後期課程満期退学。博士（文学）カリフォルニア州立大学客員研究員等をへて現在同朋大学大学院文学研究科長・教授。名大医学部講師。真宗大谷派行順寺住職。  
主な著書『増補親鸞の生と死』『仏教とビハラ運動』『人間を観る―科学の向こうにあるもの―』『ビハラ往生のすすめ』『悲しみからの仏教入門』『いのちの未来・生命倫理』『やさしく語る仏教と生命倫理』ほか多数。

\* 次回の「論点・視点」（八月号）

・財団創立五十周年記念号）は、東京大学大学院教授 末木文美士氏とサザン・メソジスト大学（米国・テキサス州）教授ルーベン・アビト氏にご寄稿いただきます。

## 国連ヴェサックデー二〇〇七・第四回国際仏教徒会議 寺町研山副会長が本会代表として出席

主に南方仏教圏で釈尊の三仏紀（誕生・入滅・成道）を五月の満月の日を中心にして祝う行事をヴェサック（ウエサカとも）という。

五月二十六日から二十九日まで、タイ・バンコクで六十一カ国から延べ三千人が参加し、ユネスコとタイ政府、そしてタイ最大の仏教大学である、マハーチュラロンコン大学が中心になった実行委員会主催によるヴェサック祝典行事と国際仏教徒会議が開催された。



ワットプラケオでの法要に参列  
壽山部長・坂本師・寺町師・戸松師・五條師

昨年に続きタイで開催され、本年はタイ国プミポン国王の八十歳の誕生祝賀行事として盛大に行われた。今回は明年ベトナムで開催される。会議では「世界の統治に仏教は何が貢献できるのか」をテーマに基調講演、シンポジウムが行われた。



会議にて、寺町研山副会長と  
パン・ワナメッティーWFB会長

今回は寺町研山副会長が本会代表として、また戸松義晴国際交流審議会委員・WFB（世界仏教徒連盟）執行役員、全日本仏教青年

会より、坂本観泰理事長・五條良知師も招待者として参加した。宿泊にはバンコク駅そばのツインタワーホテルが当てられた。

全日程を通してパロップ事務総長以下、WFB本部は本会が日本



大道晃仙会長の祝辞を代読する寺町研山副会長

僧と共にタイ国のシリワンナワリ・ナリラタナ王女殿下より、壇上で仏教僧として正式な儀礼に則って礼拝を受けた。また本会から会長の扇、会津塗りの箱などの記念品を贈呈した。

の唯一のセンターであると共に、日本の伝統仏教の代表として常に配慮して頂いた。

二十六日のブツダモン・ナコンパトンホールでの開会式では寺町副会長は、各国から参加の高

二十七日は会場をバンコク市内の国連国際会議場に移し、寺町副会長は約二千人の参加者の前で大道晃仙会長の挨拶を代読、祝辞は六カ国語に同時通訳された。

会場では、出席したタイ国スラ

ユット・チュラノン新首相と挨拶を交わした。二十八日午前、行動する仏教（エンゲージド・ブディズム）を提唱するベトナムの仏教僧ティクナット・ハン師の講演が行われた。

夕刻にワット・プラケオ（エメラルド寺院、タイ王室の菩提寺である）で国王生誕八十周年の法要が営まれた。法要には各国大使、タイ国内の有力な仏教擁護者である来賓が多数出席、マハ・シヤクリ・シリントン王女殿下が仏前で礼拝・儀礼をおこなった。寺町副会長は王女より直接仏陀像を贈呈された。

法要終了後、主催者の一つであるマハーチュラロンコン大学のダルマコサジャーン学長に、本会からマヤ堂考古学調査報告書及び記念品等を贈呈した。

今回日本からは他にも、世界連邦日本仏教徒協議会、臨済宗妙心寺派・日蓮宗等で独自に国際交流をされている僧侶の方々等かなり広範囲に参加があった。

また、式典・会議参加と併行し

て、戸松義晴国際交流審議会委員は今夏、日本でのWFB執行委員会、また明年のWFB大会に向けての事務折衝を行った。その結果八月のWFB執行委員会・本会財団創立五十周年記念式典には、パン・ワナメツテイWFB会長自らが出席頂くことになった。



寺町研山副会長と  
ダルマコサジャーン学長

WFBY（世界仏教徒青年連盟）についても、全日本仏教青年会の坂本・五條両氏がWFBYのアヌルト会長らと打ち合わせを行い、今夏姫路で行われるWFBY青年仏教徒交流プログラム、また来年の大会実施に際しての詳細の検討を行った。

## 二〇〇七年国連ヴェサックデー 祝辞

本日、二〇〇七年国連ヴェサックデーが、タイ王国で多くの皆さまの参加を得て、盛大に開催されますこと、全日本仏教会を代表し心よりお祝い申し上げます。また本行事が開催に至るまで、ご尽力を頂いた関係各位に対し、謹んで感謝の意を表します。

今日の世界の状況は、各宗教が本来目ざす人権が尊重され平和で安らかな生活の実現とは逆に、紛争の様相を呈しております。また様々な社会の問題の解決が待たれております。

かかる時代にこそ、私たちは釈尊が示された縁起の法に基づいてお互いを尊重しあう、共生・和合の社会の実現に努力せねばなりません。

全日本仏教会は、本年財団創立五十周年の節目を迎えます。それを記念して明年二〇〇八年秋に日本で第二十四回WFB世界仏教徒会議が開催されます。そこでは仏教と社会の関わり、具体的な課題についてのシンポジウムを行い議論を深める予定です。

本行事を機縁として、世界の仏教徒が更に和合することを心より祈念します。

二〇〇七年五月二十七日

全日本仏教会

会長 大道 晃仙

# 加盟団体をゆく

## 《第六回》静岡県仏教会

「加盟団体をゆく」第六回目は静岡県仏教会を訪ね、柴田尚明静岡県仏教会会長にお話を伺いました。柴田先生の御自坊「瑞光寺」は静岡市葵区にあります。お寺の応接室は、ご近所のお檀家や若者が訪ねて来て、談笑したりくつろいだり出来るよう配慮されている。広く開放されたお寺でお話しをお伺いすることができました。

―仏教会の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお話し下さい。

静岡県仏教会は県内各市町村の



柴田尚明静岡県仏教会会長

支部仏教会から構成されておりま  
す。現在、静岡県においても市町村合併が終わっている地域と進行中の地域があります。静岡県の特色として、面積が非常に広く寺院数も非常に多いため、合併に際して混乱が起きないようにしております。

他の活動としては仏教徒大会の開催・慰霊法要・会報の発行・婦人会の活動等が挙げられます。仏教徒大会は隔年で開催しています。慰霊法要については、静岡県は戦中、軍事関係の工場が多かった為、昭和二十年六月の空襲で多くの方が亡くなりましたので、県の遺族会・戦災遺族会とご一緒に戦没者慰霊法要を行っております。沖縄県にも静岡県出身者の慰霊の塔がございますので、現地での慰霊法要を今年も十一月に行います。そうした活動を広報するために、会報の発行にも力を入れて

おります。

また、県の仏教婦人会の活動が非常に活発である事が挙げられます。昭和三十年に全日本仏教婦人連盟が発足されましたが、それを受け昭和三十四年には静岡県仏教婦人会が発足致しました。以来、毎年大会が開催され去年で第四十八回を数えます。全国的に見ても婦人会主催で大会を開いているのは珍しいと思います。

県仏教会としては婦人会の方に県仏教会の理事会に参加して頂き、連携強化に勤めております。婦人会には在家の（僧侶でない）方もいらっしゃいますので、そこで繋がりが持てるのも非常に重要な事と考えております。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

学校が荒れて事件、特に命に關わるような問題が起こった際、メディアが学校に殺到する。学校側は毎回同じような謝罪を繰り返す。そういった光景を良く目にします。学校側は、他に言いよう

がない、という所だと思えます。学校に管理責任が無いとは言いませんが、全部の責任を学校にだけ押し付けても問題の解決にはなりませんし、メディアが殺到するのも生徒を取りまく環境に更に悪影響を与えるだけなのではないでしょうか。

こうした事件が頻発する背景に私は、人の「生き死に」が遠のいてしまった、という原因があると考えています。昔は、家族で誰かが亡くなった場合バタバタして非常に大変でした。葬儀もご自宅で、という方も多かったのですが、家族・親族やご近所・知人の方等、関わる全ての方が大変な思いをしました。ですが、そこで「生き死に」に直面する機会を得て、命の尊さを実感した事も多かったのではないかと思います。今は全て病院まかせ、葬儀社まかせになってしまっています。

様々な社会問題が頻発する中、特に重要なのはどんな問題に關しても「考える」という事が重要だと思えます。

―現在の仏教界と今後の仏教界の在り方について、指針のようなものをお聞かせ下さい。



第48回静岡県仏教婦人会清水大会の様相

現在の社会情勢を、県仏として座視していてもいいのだろうか、という思いはございます。現代の情報伝達方法の進んだ中で、何かそういったものを通じての情報発信は出来ないものでしょうか。世間の事件にコメントを出そう、と

考えまして、先日『中外日報』にも県仏としてコメントを載せて頂きました。心の問題は寺だけが専門という訳ではありませんが、県の仏教にマスコミがコメントを聞きにくる、そうで無ければ積極的にこちらから発信を行っていく姿勢を見せなくてはなりません。広く知らせる事がすなわち「広報」であり、こちらの声を伝えないと外の声も入ってこないです。

その為にはさまざまな知識が必要になってまいります。例えば心理学や経済学等、様々なジャンルに対して寺院関係者は積極的に学習及び情報収集を日常的に進めていくべきだと思います。過去を検証し、昔あった事を忘れない事も非常に重要な事です。ですが、過去を踏まえた上で未来への希望的なアプローチを模索するのも同じ位大切な事ではないでしょうか。

他には、寺はいわば現在の文化センターのように、檀信徒の方々をはじめ人々に開放されているべきだと思います。色々なきっかけを通じてお寺を訪ねて頂き、癒しや安らぎを感じて頂ければ、世の中

に何かを還元出来るのではないかと、思います。私のところでは、津軽三味線とお経の競演のコンサート、というイベントも企画実行した事がございます。

檀家制度だけにこだわらず、積極的に地域の人々にも喜びを与えてゆくのが我々仏教者の大きな使命の一つと考えております。

あまり内々だけになってしまいうのもいけないのではないかと思います。

―本年財団創立五十周年を迎える本会の活動へのご意見・ご要望がございましたらお聞かせ下さい。

例えば静岡県仏教会は、今回お話しした活動を行っておりますが、それが他の地域の都道府県仏教会まで広報するのはなかなか難しい状態です。同様に、私も他の都道府県仏教会の活動内容はなかなか耳に入ってきてません。各都道府県仏教会の活動の情報を収集して共有できるようにすると非常に助かります。

また、現代社会に関わる様々な問題、例えば青少年にかかわる問

題や、臓器移植や自殺等の命に関わる問題等の非常に難しいテーマに対し、実際にどう関わってゆくか手探り状態になることも多いです。そういった活動の助けとなるようなアドバイスを頂けたり、セミナー等の開催情報が発信され、私達が参加できるような広報体制が常時あると非常に有益であり、心強いと思います。

現代は情報量が多すぎ、かつほとんどが無駄な情報という状態です。全日本仏教会には都道府県仏教会や、仏教界全体に関わる情報の収集及び分析を行い、それを都道府県仏教会をはじめとした各加盟団体で共有できるようにする、いわば情報センターとしての役割を期待しております。我々の活動を後押ししてくれるバックボーンとして、これからも頑張ってください。(談)

## 無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。

# NEXT50 ②

財団創立五十周年の検証

## 全日本仏教会の記念事業と改革

総務部会長・前事務総長 齋藤 明聖

全日本仏教会は、一九五七（昭和三十）年に財団法人の認可を得て、今年、創立五十周年という節目の年を迎える。現在、「地域の縁・アジアの縁」を統一テーマに掲げ、①記念式典の挙行 ②第四十回全日本仏教会議 ③第二十四回神奈川大会の開催 ④五十年史の発行を柱とする記念事業を遂行すべく、各部会で準備に余念が無い。

### 記念事業の概略

記念式典は、八月二十三日に浄土宗大本山増上寺大殿にて挙行し、隣接する東京プリンスホテルに会場を移して、記念講演（作家・五木寛之氏）、祝賀会を催す。祝賀会は六百名規模の着席を予定しているが、これは加盟団体に対する感謝の表明と結束の確認が目的となっている。

また、四十回目となる記念すべき全日本仏教会議神奈川大会は、十一月十九日、二十日に、パシフィコ横浜を会場に開催される。記念講演には、ダ

ライ・ラマ法王が招聘され、一般市民にも公開される。社会に対するこれまでの五十年の感謝の表明としたい。さらに分科会での討論を通して、社会に運動の提言・提唱がなされることを期待している。

WFB世界仏教会議については、来年十一月十四日から十七日まで東京浅草の聖観音宗浅草寺ならびに浅草ビューホテルを会場に開催される予定である。あわせて第十五回世界仏教青年会議、第七回世界仏教大会も同時開催される。すでにその付帯事業として、青年を対象にした「仏教英語教育プログラム」を発足させ人材の育成に努めている。このたびの日本での世界仏教会議の開催は、実に三十年ぶりなことであって、各国からの期待は大きいものがあるが、その規模は最小限にとどめ、実をとって今後も継続して開催できる方途を得ることをひとつの目的としている。

### 記念事業の企画にあたって

これらの五十周年記念事業の企画に

あたっては、日頃の懸案事項を解決に移す好機と捉え、新たな事業や課題への取り組みのスタート時点としたい。広く市民に、あるいは世界の仏教徒に向けて、わが国伝統仏教界の存在感をアピールしていく絶好のチャンスと考

えたい。一方で、仏教界を取り巻く環境は厳しさを増している。カルト教団による凶悪事件の頻発、若者における信じるものの喪失など。これらの課題に十分に答えられない伝統仏教界への不満と不信感の増大である。本会五十周年記念事業は、まさにこうした社会的課題を背景に、伝統仏教界の社会的役割を示す格好の機会であり、場となりうるのではないだろうか。

### 本会の改革こそ五十周年事業

五十周年記念事業準備委員会の概要報告には、本会が五十年を機にどのような将来展望をもつてどのように変わろうとするのか、本会の改革こそ五十周年の主たる事業であるとの認識をもって、改革推進委員会の答申に期待する旨が述べられている。

改革推進委員会の答申には、本会の役割と期待される機能・能力を整理し、たうえで、加盟団体における本会に対する理解度が十分でないこと、さらに伝統仏教界の社会的存在価値が厳しく問われていることから、内外に向けた

広報の必要性と重要性を指摘している。本会が、わが国伝統仏教界の国内外の窓口として、情報の収集と発信をしていく、いわば伝統仏教界における「広報部的役割」を担っていくことを基本構想として事業の展開をしていくことを期待するというものである。

### 本会がなすべき広報事業とは

ここに『伝統仏教界』という一冊の本があったとしよう。あくまで本文は加盟団体である。全日本仏教会は、その目次あるいは索引となる仕事をしていけばよいということである。つまり宗派ができることはしなくてよい、宗派ができないことをすべきであるということである。限られた予算と人員で、あることを考えても、何をすべきであるかを捨てていくかを選択していくことが必要である。

「同和推進」を一つのたとえに考えてみよう。同和研修会は宗派でできる。本会は、各宗派、都道府県仏教会が、どのような研修を、誰を対象に、どれだけ行つたか、何がいま課題となっているかを把握し、ホームページ等で広報していくことで、加盟団体内においては啓発の促進となり、外には伝統仏教界の存在意義を示していくことができる。宗派で人権に関するイベントがあれば、宗派を超えて参加することもできる。本会は、重要な課題で

ある同和推進を目次のひとつに加え、情報の収集と発信をしていけば、イベント的な事業は必要ないのである。

あるいは、どこかに深刻な災害が起きたとき、加盟宗派や都道府県仏教会などが、どれだけの救援活動を展開したかを情報収集し、社会にアピールしていく。なにも災害救援活動に止まるものではない。伝統仏教界における様々な社会貢献活動の集約が、宗教法人に対する課税強化などにおける対政府との交渉に如何に有効か。残念ながら今の全日本仏教会にはそのような資料がない。青少年問題、カルト問題、心の電話相談、脳死の問題、臓器移植問題、死刑制度問題、仏事相談などなども同様である。加盟団体との連携を深めて、ひとつひとつ目次や索引を増やしていくことである。そうすれば、自ずとそこに伝統仏教界の弱点、課題も見えてこよう。

### 広報とは、「コミュニケーション」

時として、宗派間の話し合いが必要なこととも起こりうる。現今の朝鮮半島出身旧民間徴用者等の遺骨返還問題などだ。その時には、速やかに「連絡協議会」を招集し、課題の共有をし、解決の場を提供する。思い出していただきたい。保険業法改正問題や、公益法人制度改革問題の時に、直ちに連絡協議会を開催し情報の交換を行った。

その結果、本会は政府に対し極めて有効な手立てを講ずることができ、広く評価をいただく結果を得ることができたのである。

この「場」を提供することが、まさしく広報である。広報というと、情報を正しく広めることと考えるが、そうではない。広報とは「コミュニケーション」である。情報の流通、人の交流である。広場を提供すれば、そこに情報が集まり、信頼を得れば、それがブランド化する。広告会社として世界有数の株式会社電通は、広報とは縁づくりだという。まったく十八番を奪われた感があるではないか。五十周年記念事業のテーマ「地域の縁・アジアの縁」は、こうした本会のひいては伝統仏教界の広報課題克服のために生み出されてきたものである。

それでは、具体的に本会はどのような事業を重要課題とすべきなのか。里見達人前理事長は、いみじくも本会の事業は対国会議員・官公庁・マスコミであると見抜かれた。これこそ伝統仏教界唯一の連合体である本会のなすべき仕事である。そこには平常において、どれだけのご縁が作れるか、どれだけ仏教文化の宣揚を図れるかが大切なのであって、それがいざというときの有事に役立つのである。

### 全日本仏教徒会議の課題

記念事業の一環として、全日本仏教徒会議が開催される。神奈川県仏教会のご尽力に敬意を表するものであるが、根本的に考えておかなければならないことがある。全日本仏教会における全日本仏教徒会議の位置づけである。会議において決議宣言されたものをどう受け止め、具体化していくのか。仏教徒会議のありようも含めて、大会中の加盟団体代表者会議で協議していただきたいと思う。

### 世界仏教徒会議の課題

各宗派の国際部の活動は、主に海外開教区に関わる活動が中心である。しかし、アメリカだけでも仏教センターは電話帳一冊ほどにもなるという。海外仏教センターとの交流促進、様々な国際組織との連絡提携は、WFBを中心として、全日本仏教会に求められるところではないだろうか。来年の世界大会が、こうしたことを考える契機となることを期待している。

### 花まつりの全国展開

全日本仏教会は、宗派と都道府県仏教会とが縦糸と横糸の関係になっているとよく譬えられる。その横糸をつなぐ象徴的な全一仏教運動が、花まつりである。岐阜県仏教会が全日本仏教徒会議で、四月八日を「こころの日」として休日しようとの決議をしたが、

なかなか全日本仏教会が動かずに業を煮やしていることと思う。国家レベルでは難しい問題だが、全国津々浦々で花まつりが盛大に執り行われるよう、中長期的な課題として、本会は花まつりの全国展開を事業の中心にすえていくことが大事であろう。

### 賛助会員制度の発足

このたびの記念事業には、多方面から多額の協賛金が寄せられている。幸い、全日本仏教会の寄付行為の変更で、賛助会員制度が導入されることになった。早く規約を整備して、こうした大勢の方々との交流を継続、発展させ、今後とも本会の事業推進にお力添えをいただいくことが願われる。賛助会員からの会費収入は、花まつりの全国展開、あるいは全日本仏教会が進める何らかの社会貢献活動に資していただくことを私は希望している。

最後に、全日本仏教会の歴史を顧みて、多くの先達の熱い思いに憶いをいたすとき、このたびの事業を何としても実りあるものにすべく、私自身の責任を果たしていきたいと考える。

# 暑中お見舞い申し上げます

会長

大道 晃仙

副会長

佐藤 令宜

寺町 研山

理事長

安原 晃

常務理事

瀨 英徳

不二川公勝

長久寺徳瑞

小林 正道

小松 淨慎

服部 融宣

細川 景一

濱中 光礼

島 秀隆

浅井 侃雄

加納 博司

近藤 真道

増田 貞圓

坂本 観泰

松濤 弘道

前田 專學

監事

桶屋 良祐

柴田 尚明

樹谷 淳宣

評議員

乙川 映元

後藤 壽邦

関崎 幸孝

入西 勝彦

伊東 隆司

岡部 兼海

松山 英照

谷 晃昭

上杉 照延

菅野 秀浩

立部 祐道

榎原 禅澄

今杉 康道

竹内 正道

田中 利典

筒井 寛昭

石堂 恵眼

中村 昌道

寺内 泰俊

塚田 宗雄

若槻 繁隆

春日 浩三

山口 祐哉

田中 始更

長澤 香静

貴田 善澄

矢坂 誠徳

太田 智徳

佐伯 龍幸

湯浅 高明

村上 太胤

岡田 康秀

大井 亮

内藤 睦雄

三谷 恵仙

萩岡 裕明

高谷 文嶺

海老塚和秀

吉田 海心

善国 乘憲

中山 静磨

山下 昭文

中尾 史峰

富樫 珠徳

川中 光教

浅野 義光

田澤 元泰

深 真樹

神代 紹文

源田 俊昭

佐藤 玲秀

小島 恵真

健代 和央

吉田 泰樹

安孫子虔悦

本多 静芳

吉田 道興

望月 哲也

長谷川正浩

藤丸 智雄

小林 正道

小林 千秋

小笠原隆元

松永 然道

成田 孝英

松尾 徹裕

中村 澄枝

齋藤 明聖

入西 勝彦

太田 順祥

倉岡 弘叔

並木 優記

福井 邦彦

杉本 栄次

上田 則夫

山本 昭弘

杉山 令憲

高山 久照

坂本 観泰

参与

安孫子虔悦

沼田 智秀

高山 久照

逸見 道郎

島田 喜久

一月 正人

三浦 章爾

橋本 明禅

太田 智徳

矢坂 誠徳

貴田 善澄

長澤 香静

田中 始更

山口 祐哉

春日 浩三

若槻 繁隆

総務財政審議会

山下 昭文

中尾 史峰

富樫 珠徳

川中 光教

張田 珠潮

森 寛勝

松山 英照

谷 晃昭

司東 和光

鈴木 道雄

新倉 典生

近藤 真道

高島 孝範

東條 仁哲

青木 謙整

畔柳 正顕

国際交流審議会

小林 千秋

林 安明

戸松 義晴

持田 貫信

岡部 兼海

渡邊 宗徹

一島 正真

久志 卓世

島村 智教

田中 光成

高島 孝範

坂本 観泰

奈良 康明

松濤 弘道

「全仏」誌論説委員会

前田 專學

松濤 弘道

野生司祐宏

菅原 伸郎

川橋 範子

福岡 朋裕

# 暑中お見舞い申し上げます

## 曹洞宗宗務庁

管 長 大道 晃 仙  
 宗務総長 測 英 徳  
 参 議 南 澤 道 人  
 参 議 藏 山 光 堂  
 教学部長 乙 川 暎 元  
 総務部長 葦 原 正 憲  
 伝道部長 河 村 松 雄  
 出版部長 齋 藤 裕 道  
 財政部長 山 路 純 正  
 人事部長 須 川 法 昭  
 教化部長 宮 下 陽 祐

東京都港区芝二一五一—  
 〒105-8544 ○三(三三四五)五四一—  
<http://www.sotozen-net.or.jp>

## 浄土真宗本願寺派

総 長 不二川 公 勝  
 総 務 武 田 昭 英  
 総 務 石 上 智 康  
 総 務 菅 義 成  
 総 務 村 永 行 善  
 総 務 後 藤 壽 邦  
 総 務 松 原 功 人  
 本願寺宗務本部長 西 島 誓 哲  
 本願寺宗務本部長 西 脇 修 見  
 本願寺宗務本部長 養 藤 了 文  
 本願寺宗務本部長 藤 田 誓 之  
 本願寺宗務本部長 上 山 大 峻  
 本願寺宗務本部長 今小路 覚 真

京都市下京区堀川通花屋町下ル  
 〒600-8501 ○七五(三七)五一八一  
 FAX ○七五(三五)一一二一一

## 真宗大谷派

宗務総長 熊 谷 宗 恵  
 参 務 石 川 正 生  
 参 務 杉 浦 義 孝  
 参 務 里 雄 康 意  
 参 務 和 田 正 之  
 参 務 松 本 好 行

京都市下京区烏丸通七条上ル  
 〒600-8505 ○七五(三七)九一八一(代表)  
 常葉町七五四

## 浄土宗

浄土門主 坪 井 俊 映  
 宗務総長 稲 岡 康 純  
 総務局長 村 上 眞 孝  
 教学局長 岡 本 宣 丈  
 財務局長 川 中 光 教  
 社会国際局長 谷 地 玄 雅  
 社会福祉推進事務局局長 入 西 勝 彦  
 文化局長 光 成 範 道  
 総長公室長 浅 野 義 光  
 人権同和室長 吉 水 光 慈  
 宗務総長 職 員 一 同

浄土宗宗務庁  
 京都市東山区林下町四〇〇一八  
 〒605-0062 ○七五(五二)二二〇〇(代)  
 FAX ○七五(五三)五一〇〇五  
 東京都港区芝公園四一七一四  
 〒105-0011 ○三(三三四三)三三五一(代)  
 FAX ○三(三三四三)〇七四四  
<http://www.jodo.or.jp>

## 日蓮宗宗務院

管 長 酒 井 日 慈  
 宗務総長 小 松 淨 慎  
 伝道局長 伊 東 隆 司  
 総務局長 張 田 珠 潮  
 伝道部長 梶 山 寛 潮  
 教務部長 渡 辺 照 敏  
 総務部長 藤 岡 暎 邦  
 財務部長 駒 野 教 源  
 宗務総長 室 務 長 亮 行  
 現代宗教研究 田 澤 元 泰  
 参 与 堀 江 宏 正  
 参 与 浅 井 玄 裕

東京都大田区池上一一三二一—  
 〒146-8544 ○三(三三七五)七一八一  
 FAX ○三(三三七五)一七八六  
<http://www.nichiren.or.jp/>

# 暑中お見舞い申し上げます

総本山金剛峯寺  
高野山真言宗宗務所

座長 松長有慶

執行部長 庄野光昭

執行部長 永島龍弘

執行部長 村上保壽

執行部長 飛鷹全隆

執行部長 森寛勝

執行部長 山階清隆

総長公室長 岡部兼海

内事長 柏田良辯

社会人局長 深真樹

局 倉岡弘叔

.....

奥の院維那 日野西眞定

伽藍維那 宮田永明

和事相講伝所 本田隆秋

東京別院主監 服部融宣

東京別院主監 堀川別院主監 佐々木弘傳

和歌山県伊都郡高野町高野山一三二

〒648-0294 〇七三六(五〇)二〇一一  
FAX 〇七三六(五〇)四六四〇  
<http://www.koyasan.or.jp/>

臨濟宗妙心寺派宗務本所

天台宗務庁

真言宗智山派宗務庁  
総本山智積院法務所

真言宗豊山派宗務所

管長 東海大光

天台座主 半田孝淳

管長 阿部龍文

管長 鳥居慎譽

宗務総長 細川景一

宗務総長 濱中光礼

宗務総長 島秀隆

宗務総長 浅井侃雄

総務部長 松井宗益

総務部長 谷晃昭

総務部長 佐藤玲秀

総務部長 中川祐聖

教学部長 栗原正雄

法人部長 壬生照道

教学部長 堀井隆栄

財務部長 鈴木道雄

財務部長 松山英照

財務部長 山本亮裕

教化部長 久志卓世

教化部長 根岸榮宏

本部園長 一色宏襄

参学部長 水尾寂芳

法務部長 倉松隆観

教務部長 菅野秀浩

法務部長 川島謙宗

参社会部長 源田俊昭

財務部長 司東和光

教化センター長 田代弘興

花園園長 (兼) 松井宗益

参一隅を照らす  
運動総本部長 秋吉文隆

宗務出張所長  
別院執事 廣橋義敬

真言宗豊山派総合研究院 院長  
加藤精一

京都市右京区花園妙心寺町六四  
〒616-8035 〇七五(四六三)三二二一  
<http://myoshin.com/>

大津市坂本四丁目六番二号  
〒520-0113 〇七七(五七九)〇〇二二  
FAX 〇七七(五七九)二五二六  
<http://www.tendator.jp/>

京都市東山区東大路七条下ル  
〒605-0951 〇七五(五四)二五三六一  
<http://www.chisan.or.jp/>

東京都文京区大塚五十四〇一八  
〒112-0012 〇三三(九四五)〇六三九  
FAX 〇三三(九四五)〇七〇二

# 暑中お見舞い申し上げます

総本山仁和寺  
真言宗御室派  
御室流華道総司庁

管門 長跡 佐藤 令宜

執行 宗務 立部 祐道

執行 総務 沖田 定信

執行 教学 上田 秀宏

執行 財務 西 仁海

京都市右京区御室大内三三三  
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五  
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇  
<http://www.ninnajior.jp>  
E-mail office@ninnajior.jp

真言宗醍醐派宗務本庁  
総本山醍醐寺寺務所

座管 主長 麻生 文雄

執行 宗務 仲田 順和

執行 総務 岡田 祐雄

執行 教学 田村 照晃

執行 財務 壁瀬 宥雅

京都市伏見区醍醐東大路町三二  
〒601-1325 〇七五(五七二)〇〇〇二  
FAX 〇七五(五七一)〇一〇一  
<http://www.daijioji.jp>  
携帯電話でも御覧頂けます。



融通念佛宗  
総本山大念佛寺

法管 主長 倍巖 良舜

寺務 宗務 吉村 暲英

法務 教学 中江 慈光

庶務 部長 岡田 眞澄

執行 財務 北川 全宏

大阪市平野区平野上町 一一七-二六  
〒547-0045 〇六(六七九)〇〇二二六

孝道山 本仏殿

第二世統理 岡野 正貫

副統理 岡野 鄰子

第三世統理 岡野 正純

横浜市神奈川区鳥越三八  
〒221-0064 〇四五(四三三)二二〇一

本門佛立宗  
本山宥清寺

講 有 小山 日誠

宗務 総長 佐藤 日風

本山宥清寺  
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入  
滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一  
TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代)  
FAX 〇七五(四六三)四六五一  
本門佛立宗 宗務本庁  
〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る  
東堅町一〇番地  
TEL 〇七五(四六一)一一六六(代)  
FAX 〇七五(四六四)五五九九  
URL <http://www.honmon-butsuryushu.or.jp/>

真言宗中山寺派

大本山中山寺

宝塚市中山寺二丁目十一-一  
〒665-8588 〇七七(七八七)〇〇二二四  
FAX 〇七七(七八七)九八七七  
<http://www.nakayamadera.or.jp>

宗教法人 念法眞教

総本山 金剛寺

大阪市鶴見区緑三十四-二二二  
〒538-0054 〇六(六八九)一一二〇一  
<http://www.nenpoushinkyou.jp/>

臨濟宗南禪寺派

宗務 総長 後藤 憲雄

京都市左京区南禪寺福地町八六  
〒606-8435 〇七五(七七二)〇三六五  
FAX 〇七五(七七二)六九八九  
<http://www.nanzennet>  
E-mail info@nanzen.net

# 暑中お見舞い申し上げます

天台眞盛宗宗務所  
総本山西教寺

名誉管長 山本孝圓

宗務総長  
執事長 武田圓寵

庶務部長 勝田秀譽

財務部長 藤上良英

社会部長 砂原圓凝

教学部長 三津堯賢

滋賀県大津市坂本五―三―一  
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三  
FAX 〇七七(五七八)三四一八

新潟県仏教会

会長 中村啓識

全仏評議員 春日浩三

副会長 桑原大宗

同 上原教仁

同 春日教雄

同 坂部祐仁

事務局長 小林秀徳

長岡市上田町二―二五 徳聖寺内  
〒940-0074 〇二五八(三三)一五八六

真言宗須磨寺派  
大本山須磨寺

貫主 小池弘三

寺務長 吉井恵貫

神戸市須磨区須磨寺町四―六―八  
〒654-0071 〇七八(七三)〇四一六

真言三宝宗  
大本山清澄寺

法管主長 坂本光謙

宗務長 岡田康秀

執行長 有井良随

鉄斎美術館  
館長 村越英明

宝塚市米谷字清シ一番地  
〒665-0837 〇七九七(八六)六六四一  
FAX 〇七九七(八六)六六六〇  
<http://www.kiyoshikojin.or.jp>

愛知県仏教会

会長 近藤真道

副会長 吉田教行

同 田畑修身

同 岩木涼山

名古屋市中区高峯町四八  
普蔵寺内  
〒466-0811 〇五二(八三)九九七二〇

財団法人  
国際仏教興隆協会

印度山日本寺  
竺主 中村康隆

理事長 安田暎胤

事務総長 正本乗光

役員一同

東京都目黒区中目黒五―二四―五三  
〒153-0061 〇三(三七)一七六〇八  
FAX 〇三(三七)一七六七三  
<http://homepage2.nifty.com/nip-pouji/>  
E-mail: hbae@nifty.com

総本山 根来寺

新義真言宗宗務所

和歌山県岩出市根来二二八六  
総本山 根来寺内  
〒649-6202 〇七三六(六二)一四四  
FAX 〇七三六(六二)一〇四四

臨濟宗円覚寺派

大本山 円覚寺

鎌倉市山ノ内四〇九  
〒247-0062 〇四六七(二二)〇四七八  
<http://www.engakuji.or.jp/>

法相宗

管長 多川俊映

奈良市登大路町四八  
法相宗大本山興福寺  
〒630-8213 〇七四二(二二)七七五

# 暑中お見舞い申し上げます

黄檗宗大本山萬福寺  
黄檗宗宗務本院

管 長 仙石泰山

宗務総長 中島義晃

庶務部長 住谷瓜頂

教学部長 林 晋堂

財務部長 大鹿義弘

京都府宇治市五ヶ庄三番割三四  
〒611-0011 〇七七四(三三)三九〇〇  
F A X 〇七七四(三三)六〇八八

大阪府仏教会

会 長 増田貞圓  
(真宗大谷派 圓勝寺)

副会長 北村日照  
(日蓮宗 櫛笥寺)

同 森田俊朗  
(和宗 中之院)

同 辻本戒雲  
(浄土真宗本願寺 常照寺)

同 細井光道  
(浄土宗 西光寺)

事務局長 井桁雄弘  
(浄土宗 大圓寺)

事務局  
大阪市住吉区墨江三十一七八  
〒558-0043 〇六六六七(三三)二五九  
F A X 〇六六六七(三三)五〇〇四

社団法人  
全日本仏教婦人連盟

名誉会長 鷹司誓玉

会 長 大谷 貴代子

副会長 稲山 靈 芳

同 大賀 美都子

同 末 廣 久 美

理事長 島田 喜久子

事務局長 林 恵智子

東京都渋谷区千駄ヶ谷  
四一五一十一二〇五  
〒151-0051 〇三(五七七二)〇六七七  
F A X 〇三(五七七二)〇六七七  
<http://jbwf.jp>  
E-mail: info@jbwf.jp

北海道仏教会連盟

会 長 藤井純恵

札幌市中央区北三条西十九丁目二一  
浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内  
〒060-0003 〇一一(六一)九六二三

静岡県仏教会

会 長 柴田尚明

静岡県静岡市葵区安西一〇〇一  
瑞光寺  
〒420-0011 〇五四(二七)一七二二

本山佛光寺  
真宗佛光寺派

宗務総長 大谷義博

京都市下京区高倉通仏光寺下ル  
新開町三九七  
〒600-8084 〇七五(三四)三三三二  
F A X 〇七五(三四)三三二〇

真言宗国分寺派

管 長 丸山 雙 誉

大阪市北区国分寺一六一一八  
〒531-0064 〇六六(三五)五六三七  
F A X 〇六六(三五)五六四七

財団法人  
日本佛教鑽仰会

理事長 中山 静 磨

東京都板橋区舟渡四一五五一  
〒174-0041 〇三三(九六七)三二八八

滋賀県仏教会

滋賀県大津市坂本五一三一一  
総本山西教寺内  
滋賀県仏教会事務局  
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三  
F A X 〇七七(五七八)三四一八

# 暑中お見舞い申し上げます

本年十一月十九日・二十日、パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）におきまして全日本仏教会財団創立五十周年記念事業「第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会」が開催されます。皆様のご協力とご参加を心よりお願いいたします。

## 神奈川県仏教会

会長 横山 敏明

副会長 倉田 隆常

同 長尾 徳順

同 藤井 良晃

神奈川県大会  
実行委員長 本間 孝康

神奈川県大会  
実行副委員長 和田 大雅

事務局長 井澤 孝一

横浜市中央区大平町九十六  
西有寺内  
〒231-0859 ○四五(六六二)〇一六六

財団法人 埼玉県佛教会

## 「新埼玉佛会館」

今秋落慶予定!!

会長 酒井 文雄

副会長 藤田 得三

同 萩野 映明

専務理事 木村 盛雄

常務理事 穂山 教雄

同 石垣 源順

同 金剛 秀房

同 大塚 寛爾

さいたま市浦和区高砂

四一三三一八

〒330-0063 ○四八(八六一)二二三八

FAX ○四八(八六四)六六四九

http://saibutunet/

西山浄土宗  
総本山光明寺

法管 主長 岩田 文有

内局 一同

京都府長岡京市粟生西条ノ内二六一  
〒617-0811 ○七五(九五五)〇〇〇二  
http://www.komyo-ji.or.jp

## 顕本法華宗

管 長 中村 日玄

宗務総長 藤崎 広学

京都市左京区岩倉幡枝町九十一  
〒606-0015 ○七五(七九一)七一七一  
FAX ○七五(七九一)七二六七

## 岐阜県仏教会

岐阜市西野町三一  
岐阜西別院在会所西側入口  
〒500-8882 ○五八(二六〇)七八〇三  
FAX ○五八(二六〇)七八〇三  
http://dukkyogifunev/

## 愛媛県仏教会

会長 長 斎 藤 友 巖

副会長 片井 祥雲

同 二宮 泰慶

松山市土居町一〇五九 万福寺内  
〒791-1115 ○八九(九五七)七三四二

聖観音宗 浅草寺

貫 首 清水谷 孝尚

東京都台東区浅草二一三一  
〒111-0032 ○三(三三四)〇一八一  
FAX ○三(三三四)五九九三三

大本山大覚寺  
真言宗大覚寺派宗務庁

管門 長 跡 新開 真堂

京都市右京区嵯峨大沢町四  
〒616-8411 ○七五(八七二)〇〇七一  
FAX ○七五(八八二)四九一一

社団法人  
日本仏教保育協会

東京都港区芝公園四一七一四  
照明会館内  
〒105-0011 ○三(三三四)一七四七五  
FAX ○三(三三四)一一五一九

# 暑中お見舞い申し上げます

## 東京都仏教連合会

会長 井上 瑞雄

理事長 山田 一真

事務局長 新倉 典生

東京都足立区梅田一―二十六―十  
善立寺内  
〒123-0851 ○三(三八八六)一三六七  
FAX ○三(三八八六)八二五二

## 福島県仏教会

会長 中村 昌道

専務理事 秋月 亨観

事務局長 増子 和光

会津若松市川原町五一―一〇

弘長寺

〒965-0865 ○二四二(二七)三六三七

金峯山修験本宗 青森県仏教会  
天台寺門宗 岩手県仏教会  
和宗 群馬県仏教連合会  
妙見宗 栃木県仏教会  
真言宗善通寺派 茨城県仏教会  
真言宗山階派 千葉県仏教会  
真言宗泉涌寺派 石川県仏教会  
信貴山真言宗 福井県仏教会  
真言宗大鳴派 山梨県仏教会  
東寺真言宗 長野県仏教会  
浄土宗西山禅林寺派 京都仏教会  
浄土宗西山深草派 京都府仏教連合会  
真宗高田派 兵庫県仏教会  
真宗興正派 和歌山県仏教会  
真宗本辺派 島根県仏教会  
時宗 岡山県佛教会  
臨済宗建長寺派 鳥取県仏教会  
臨済宗相国寺派 香川県仏教会  
臨済宗東福寺派 (社)徳島県仏教会  
法華宗本門流 高知県仏教会  
法華宗陣門流 福岡県仏教連合会  
法華宗真門流 長崎県教連合会  
本門法華宗 宮崎県仏教会  
聖徳宗 沖縄県仏教会  
華嚴宗 東京ブティストクラブ  
真言律宗 全日本仏教青年会  
律宗 仏教情報センター

財団創立50周年  
記念事業実行委  
員会  
柴田 尚明  
樹谷 淳宣  
寺内 泰俊  
大井 亮  
川島 宏之  
荒川 正憲  
日比野郁皓  
野生司祐宏  
北條 祐英  
石田 祐寛  
若槻 繁隆  
中 正宣  
藤木 雅雄  
杜多 徳雄  
木内 隆志  
小峰 立丸  
一島 正眞  
長谷川正浩

委員長 安原 晃  
委員 山下 昭文  
中村 澄枝  
齋藤 明聖  
入西 勝彦  
張田 珠潮  
森 寛勝  
松山 英照  
谷 晃昭  
廣橋 義敬  
菅野 秀浩  
渡部 高男  
坂本 峰徳  
福田 収治  
岡田 祐雄  
生柳 光壽  
君野 謙賢  
松浦 浩道  
前阪 良憲  
高木 貞歡  
久我 儼昭  
青木 謙整  
岡本 誠教  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

副委員長 測 英徳  
不二川公勝  
長久寺徳瑞  
小林 正道  
小松 淨慎  
服部 融宣  
細川 景一  
濱中 光礼  
島 秀隆  
浅井 侃雄  
岡野 正純  
森田 俊朗  
守山 雄順  
仲田 順和  
藤井 純恵  
酒井 文雄  
大谷 博通  
横山 敏明  
加納 博司  
近藤 真道  
増田 貞圓  
坂本 観泰  
松濤 弘道  
前田 専學  
桶屋 良祐

事務総局長 池田 行信  
事務局長 松永 然道  
事務総長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

総務部 宮川 宏生  
入西 智彦  
小宮 加奈  
飯島 尚之  
江澤みゆき  
社会人権部  
奈良 慈徹  
加久保範祐  
白井 雄仁  
広報文化部  
江口 智流  
西野 良嘉  
国際部  
壽山 良光  
北折 真一  
関西支局一同  
記念事業担当  
山本 観晃

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

事務総長 長谷川正浩  
事務局長 小笠原隆元  
事務局長 山口 祐哉  
桑原 持  
吉田 教行  
黒川 英正  
長沢 香静  
川島 謙宗  
井桁 雄弘  
矢坂 誠徳  
太田 智徳  
太田 哲寿  
疋田 裕明  
萩岡 裕明  
藤原 宥然  
三浦 章爾  
一月 正人  
吉田 海心  
林 恵智子  
藤城 尚  
藤城 尚  
正本 乗光  
朝比奈恵温  
窓岡 弘道  
福家 俊彦  
牧野 秀成  
田中 利典  
平岡 昇修  
森谷 英俊

## 理事会・評議員会開催

本会の理事会・評議員会が、五月二十三日、リーガロイヤルホテル京都にて開催され、平成十八年度事業報告・収支決算、理事・評議員の変更などが慎重審議された。

### 評議員会

長澤香静師（京都仏教会）が議長に選出され、高井正俊評議員（臨濟宗建長寺派）・寺内泰俊評議員（茨城県仏教会）が議事録署名人に選出された。

議案第一号 理事の変更及び監事の就任について承認を求める件

理事・監事の退任に伴い、残任期間を勤める理事・監事の就任が全会一致で承認された。

協議事項一 平成十八年度事業報告について意見を求める件  
協議事項二 平成十八年度収支決算について意見を求める件

長澤議長より一括上程される。

桶屋良祐監事（念法真教）より、本年五月十日、本会会議室において開催された監査会について

の監査報告がされ、全会一致で賛同の意が示された。

### 理事会

安原晃理事長（真宗大谷派）が議長に、増田貞圓理事（大阪府佛教会）・近藤真道理事（愛知県佛教会）が議事録署名人に選出された。

議案第一号 評議員及び参与の変更について承認を求める件

評議員・参与の退任に伴い、残任期間を勤める評議員・参与の就任が全会一致で承認された。

議案第二号 平成十八年度事業報告について承認を求める件

議案第三号 平成十八年度収支決算について承認を求める件

安原議長より一括上程される。

桶屋良祐監事（念法真教）より監査報告がされ、評議員会での原案賛成の意見を受け全会一致で承認された。

### 理事会・評議員会共通協議事項

宗教教育の推進について意見を求める件

杉谷義純宗教教育推進特別委員会委員長より、委員会の発展的解散に関して、新たに宗教教育の指導要綱やガイドラインの作成、政府・社会への提言を目的とする委員会を設置することへの理解を求める旨の報告がされ、全会一致で賛同を得た。

## 平成十八年度事業報告

一、仏教界を取りまく課題・問題等について調整・対応をおこなう。

二、「朝鮮半島出身の旧民間徴用者等の遺骨返還問題」に関する対応。

三、公益法人制度改革に関しての情報随時収集し、状況に応じて関係各所に要請。

四、都道府県仏教会代表者会議を開催し、市町村合併に伴う現況等を協議。

五、加盟団体顧問弁護士連絡会を開催。

六、宗教教育推進特別委員会を開催し、今後の対応等を協議。

七、仏教界全体の広報を考えるた

め「広報委員会」を設置し、広報の拡充に努めた

八、機関誌『全仏』の誌面充実のために「論説委員会」を新設。

九、「義理かけ法要への協力防

止」「子どもたちのいじめ、自死に関して」「北朝鮮の核実験

について」等の理事長談話のプレスリリースを行った。

十、第二十三回WFB世界仏教徒会議台湾大会に参加。開会式において、ルンビニー園マヤ堂復興事業に対してWFBから功労

賞を授与。

十一、パリ・ユネスコ本部で行われた「仏紀二五〇年記念祝賀行事」に松濤弘道理事が参加。

十二、WFB執行委員会がタイ・バンコクで開催され、第七十三

回執行委員会及び第二十四回世界大会が日本で開催されること

が承認された。

十三、インド洋津波犠牲者三回忌追悼法要をタイ・プーケットにおいて厳修。

十四、本財団創立五十周年記念事業の推進。

## 収支計算書 (一般会計)

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	決算額	備 考
事業活動収支の部		
I 事業活動収入(A)	109,915,788	
1. 基本財産運用収入	14,576	預金利息
2. 負担金収入	99,531,000	
3. 未納徴収金収入	195,000	平成17年度未納付分
4. 寄付金収入	0	
5. 協賛金収入	4,180,000	懇親会協賛金・祝儀等
6. 雑収入	5,995,212	頒布品収入等
II 事業活動支出(B)	109,129,558	(C) + (D) + (E)
1. 事業費支出(C)	62,533,486	
(1) 事業推進費支出	973,852	時局対策費/渉外費
(2) 社会人権費支出	6,888,036	社会人権費/調査研究費/組織強化費
(3) 広報文化費支出	9,246,101	機関誌発行費/広報対策費/文化諸費
(4) 国際費支出	4,108,632	国際交流費/WFB関係費
(5) 職員費支出	33,613,461	給与/手当/厚生費
(6) その他事業費支出	7,703,404	関西支局費/印刷費/調製費/通信費/出張旅費
2. 管理費支出(D)	43,596,072	
(1) 会議費支出	4,858,113	理事・評議員会費/諸会議費
(2) 事務所費支出	10,318,683	借室費/光熱費/備品費/諸費
(3) 職員費支出	24,192,694	給与/手当/厚生費
(4) その他管理費支出	4,226,582	日本宗教連盟負担金/委託費/慶弔費
3. 他会計への繰入金支出(E)	3,000,000	
(1) 財団創立50周年記念 事業会計への繰入金支出	3,000,000	
事業活動収支差額(F)	786,230	(A) - (B)
投資活動収支の部		
I 投資活動支出(G)	4,304,150	
1. 基本財産取得支出	500,000	
2. 特定資産取得支出	3,450,000	
3. 固定資産取得支出	354,150	
予備費支出	0	
前期繰越収支差額(H)	21,687,160	
次期繰越収支差額	18,169,240	(H) + (F) - (G)

\*事業報告・決算報告は本会ホームページでご覧になれます。 <http://www.jbf.ne.jp>

## 社会人権審議会(全体会)

五月十六日(水)十三時から全日本仏教会会議室において第三回社会人権審議会が開催された。

審議に入る前に、浄土真宗本願寺派の委員変更に伴い、和治教文委員へ委嘱状が伝達された。

事務総局より各委員の紹介、配付資料の確認があり、今まで二回開催された全体会の報告が行われ、委員長が議題に基づき審議を進めた。

審議内容は諮問にある「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止要請文について」慎重審議された。先ず、要請文を出す時期について、いつ頃が効果的かが話し合われた。また、本要請が通らないときは、抗議の意を表す旨の文言を最終段に入れる方向で決定した。次回の、各部会は、六月二十一日に社会部会、七月十七日に人権部会を開催する。

## 同和・人権問題連絡協議会

五月二十九日(火)十四時から明照会館四階第一会議室にて同和・人権問題連絡協議会が開催された。

平成十八年十二月、杉本了恵社会人権審議会副委員長(真宗大谷派)の司会で、「同和委員会二十年の歩み」と題して、真宗大谷派宗務所にて、元同和委員会委員長の佐々木兼俊師(高野山真言宗)・深澤信善師(曹洞宗)・出口芳演師(浄土宗)にご参集いただき、同和委員会が発足した時の状況と、二十六年間の経緯等を座談会方式でお話いただいた。このたび本会では、その内容をまとめ、冊子として発行した。その発刊にあたり、出口芳演師に座談会時の雰囲気を踏まえ講義を頂いた。

午後三時より「朝鮮半島出身旧民間徴用者等の遺骨返還問題」への取り組みと現況報告がなされた。(厚生労働省・内閣官房・外務省・文化庁宗務課より担当者が出席)

先ず、総務部より、本会が進めてきた遺骨返還の取り組みの経過並びに情報収集の現況について説明がされ、厚生労働省人道調査室から現在までの情報に基づいて実施された現地調査と今後の方針についての報告がされた。

①今までのところ遺族の身元情報はない。②これまでの報告・現地調査では北朝鮮出身の遺骨は出

てきていないが、出てきた場合の取り扱いについては、政府として可能な限り対応をしていく。③全日本仏教会等より日本政府に提供された情報については、日韓協議の場に限らず随時情報提供をしてほしいと、韓国側から要請があり、今後は各宗派からのご遺骨に関する情報が入り次第、実地調査を行い、情報を提供していく。④遺骨を保管している寺院名、遺骨の名前、本籍個別性について提供していかをご寺院に確認の上、了承が得られた場合は韓国側に報告をする予定になっている。⑤実地調査の要綱に基づき、調査は宗派・寺院の考えに沿って決定する事になる。

遺骨情報調査の結果も集められ、実地調査も増えてくると思われる。今後も必要に応じて遺骨返還に関する連絡協議会を随時開催していく予定である。

## 財団創立五十周年 記念事業実行委員会報告

## 総務・式典合同部会

五月十一日(金)午後二時より、明照会館四階会議室にて総務・式典合同部会が開催された。会議には、総務・勸募・式典・神奈川大会・WFB大会・記念誌編纂の実行委員会各部長が出席し、合同部会としては二回目の開催となる。はじめに、各部会の現況が事務局より報告され、記念式典・全日本仏教徒会議日本大会・世界の進捗状況、記念事業の収支状況及び特別協賛金勸募の趣旨と趣意書について確認を行った。次いで、記念式典で行われる功労者表彰に関して、加盟団体よりの推薦者及び総務部会推薦による候補者の確認と検討が行われた。

## 勸募部会

六月一日(金)午後二時より本会会議室において第二回 勸募部会が開催された。

すでに加盟団体の宗派、仏教団

体には事業協力金としてお願いをして  
している。また、都道府県仏教会  
へは、協賛金として協力を依頼。  
徐々に入金を頂いている。しか  
し、記念事業が無事円成出来るよ  
う、さらなるお力添えをたまわり  
たく、今後は、加盟団体をおし  
て、有力・由緒寺院・仏教関係の  
企業等にも特別協賛金を依頼して  
いくことが話し合われた。

### WFB大会部会

六月四日(月)午後一時三十分よ  
り、本会会議室に於いて、第五回  
WFB(世界仏教徒連盟)日本大  
会部会が開催された。

本会議においては開催会場の決  
定を含め、大きく二点について協  
議された。

1、本年八月二十二、二十三日  
に開催されるWFB執行委員会に  
ついて協議された。各執行委員  
は、午後二時から併催される財団  
創立五十周年記念式典に参列して  
いただいた後、祝宴までの時間(五  
木寛之氏による記念講演)を使っ  
て、本会WFB部会委員・国際交  
流審議会委員を交えて、来る日本  
大会についての話し合いを設ける  
ことになった。祝宴には再び合流

し懇親を深めていただく。

2、明年十一月に開催される  
WFB日本大会の開催地が、当初  
検討されていた増上寺・東京プリ  
ンスホテルから浅草の浅草寺・浅  
草ビューホテルをメイン会場で行  
うことが承認された。これは、明  
年の十一月には増上寺大殿が大改  
修工事の為覆いがかかっている状  
態であること、また、境内には重  
機・作業資材が置かれており使用  
困難を考慮してである。一方、新  
たに提案された浅草を会場とする  
案では、浅草寺が、明年十一月に  
本堂建立五十周年記念法要が催さ  
れ、周辺地域あげての大きな行事  
が組まれていること、さらに本会  
事業に対しても協力していただけ  
る意向を示していただけことが  
大きな理由である。

### 神奈川大会部会

六月五日(火)午後二時、本会会  
議室において第七回目の会議を開  
催した。

まず、大会開催主旨文について  
は十分な協議がなされ、加筆・訂正  
された文章が了承された。次に大  
会宣言文の内容について協議がな  
され、財団創立五十周年記念事業

基本計画に基づき精査する必要が  
あるとの意見があった。協議内容  
を踏まえて、次回の会議に事務局  
から提出することで了承された。

各分科会及び加盟団体代表者会  
議の概要は今会議で決定され、今  
後は事前打合せ会議を開催するこ  
とが確認された。ドライ・ラマ記  
念講演チケット販売については、  
神奈川県外寺院の予約開始は六月  
下旬、一般者向けチケット販売は  
8月下旬の予定。

また、横浜中華街の代表者とコ  
ンタクトを取り、本大会にどのよ  
うな協力を頂けるのか懇談するこ  
とが報告された。尚、七月に神奈  
川県仏教会から「全日本仏教徒会  
議神奈川大会要綱」が発送される。  
内容は『全仏』五三一号に掲載予  
定。

### ★今月の表紙について★

釈尊の生誕地であるルンビニ  
一園に昇る朝日。ルンビニーは  
ヒマラヤ山脈の麓、現在のネパ  
ール王国の領土内西部タライ盆  
地にある小さな村。仏教の八大  
聖地の一つの世界遺産である。

### 財団創立五十周年記念事業 特別協賛金寄付者御芳名

〔寄付者〕

(五月八日～六月四日)

- 太福寺 佐久間大道・東光寺
- 望月慶子・大栄寺・寂光院
- 河楠教会 小西正純・永澤寺
- 正福寺・愛知真和学園・金剛寺
- 迎接院・光明寺・法蓮寺・金剛院
- 安本利正・湖東仏教会 第三分会
- 部落解放同盟中央本部・善立寺
- 総本山金剛峯寺

(順不同・敬称略)

合計 一六一万円  
ご支援ありがとうございました。  
皆様のご支援・御協力をお待ち申  
しあげております。

〔郵便振替〕

口座番号

0013016137600

口座名義

財団法人 全日本仏教会

〔銀行振込〕

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号

普通 7082913

口座名義

財団法人 全日本仏教会

# 東大寺第二百十九世別當晋山式

五月三十日、奈良県・東大寺で、東大寺第二百十九世別當上野道善大僧正（華嚴宗管長）の晋山式が厳修された。傳燈奉告法要は午前十一時より、東大寺大仏殿にて厳肅に執り行われた。

上野管長は廬舎那仏の尊前にて「傳燈奉告文」を奉読され、「時二世ハ内ニハ眼前ニ改革ノ流レ日々ニ新タナルヲ見ルモオヲ研キ智ヲ磨ク者競ヒテ己ガ身ヲ圖ルノミニシテ世ヲ圖ル氣概ヲ欠ク風潮著シク習俗ノ浮薄ニ流ルルハ黙視スルニ堪ヘザルモノアリ」と現代社会の闇を嘆き、「自ラニ鞭打ち法燈ヲ繼承シ世界ニ掲ゲント欲ス」と仏法興隆への固い決意を表明された。

法要には松長有慶高野山真言宗管長・安田暎胤薬師寺管主を始め、多くの来賓、関係者、門弟、壇信徒が参列した。

当日はあいにくの雨模様であったが、東大寺には多くの一般参詣



披露宴で挨拶をする上野管長

者が訪れていた。そして、参列者と共に厳肅に傳燈奉告法要を見守っていたのが印象的であった。

上野管長は、龍谷大学卒業後、東大寺で庶務執事・財務執事・執事長大仏殿院主などを歴任。また、東大寺学園の理事長として後進の育成に力を注がれてきた。

午後からは、大仏殿裏庭の特設テントに場所を移し、晋山披露の宴が盛大に開催され、安田暎胤管主が上野管長の気さくな人となりを讃えられると共に、今後の御健勝を念じる旨の祝辞を行った。

# 第三十一回正力松太郎賞表彰式

（財）全国青少年教化協議会（全青協）は、五月十七日「第三十一回正力松太郎賞」表彰式並びに祝賀会を東京プリンスホテルにおいて開催した。

本年は藤沢哲真師（滋賀県・浄土真宗本願寺寶幢寺）と絵日傘人形研究会（秋田県・真宗大谷派廣誓寺・亀崎英潤代表）が受賞した。



河村松雄師より藤沢哲真師に表彰状が手渡される

藤沢師は、戦後まもなく子供会を作り、地域の青少年教化を六十年以上続けてきた功績に対して授賞された。

また、絵日傘人形研究会は、三

十六年間に及ぶ人形劇の公演を通して子ども達の育成に寄与した実績から授賞された。



河村松雄師より亀崎英潤代表に表彰状が手渡される

表彰式は、全青協英徳理事長の代理として河村松雄曹洞宗伝道部長が祝辞を述べ、表彰状と副賞を手渡した。祝辞は、読売グループを代表して小松崎和夫報知新聞社代表取締役、岡田真浄土真宗本願寺派組織教化部長、関崎幸孝真宗大谷派東京宗務出張所所長、柳田弘秋田県由利本荘市市長、奈良慈徹本会社会人権部長らが述べた。

# ホームページ・リニューアル!!



2007・07・01 OPEN

全日本仏教会のホームページが、仏教界のポータルサイト(玄関)を目指すべくリニューアルしました。

URL <http://www.jbf.ne.jp>

比叡山宗教サミット20周年記念

## 世界宗教者平和の祈りの集い



平成19年8月4日(土)15:30黙祷  
共に世界平和を祈りましょう

1987年「比叡山宗教サミット」が開催され、平和の祈りが世界に発信されました。20周年の節目を迎える本年は、8月3日には国立京都国際会館で開会式・シンポジウム、4日には比叡山根本中堂前広場にて「世界宗教者平和の祈りの集い」が行われます。また、20周年を記念し、『平和の鐘』が完成いたします。

皆様どうぞ、この祈りの輪に加わって下さい。そして頭を垂れ、心をあわせて共に祈り平和への長い道を歩みましょう。



**主催** 日本宗教代表者会議

**後援** 全日本仏教会 教派神道連合会 日本キリスト教連合会

神社本庁 新日本宗教団体連合会

世界宗教者平和会議日本委員会 世界連邦日本宗教委員会